

各務原市地域公共交通計画【概要版】  
2024～2030

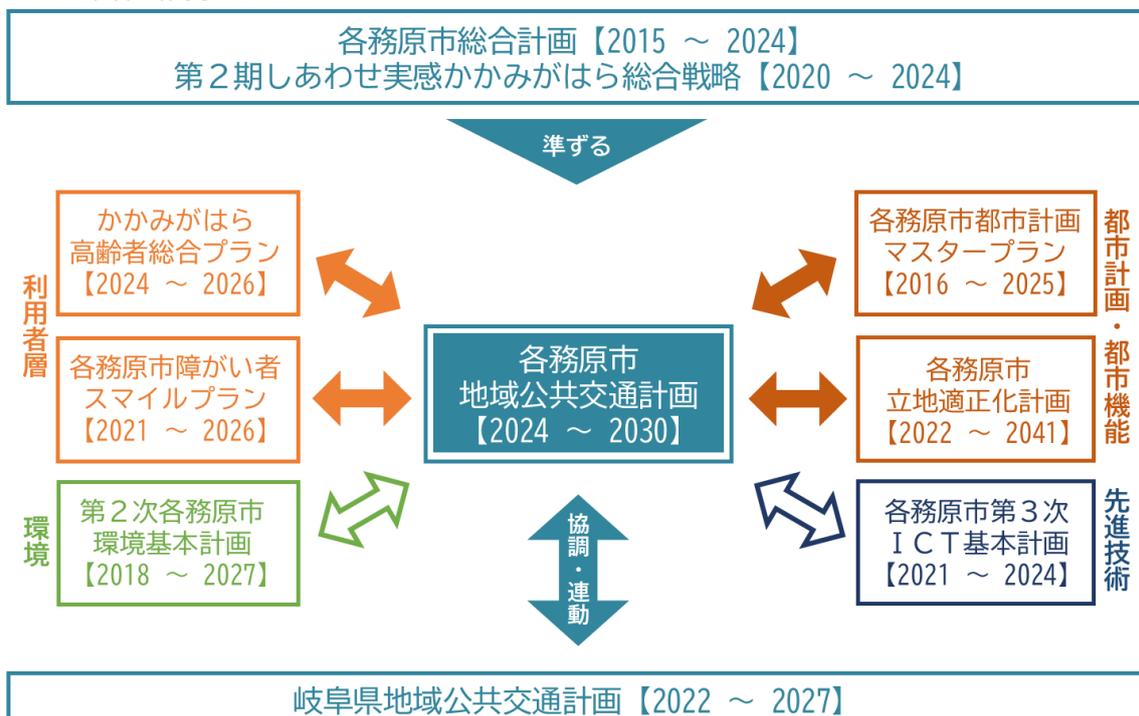
各 務 原 市

# 1. 本計画の位置づけ

各務原市では、「笑顔があふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～」を将来都市像に掲げ、鉄道を軸に持続可能なコンパクトなまちづくりとネットワークづくりを推進していく方針を掲げています。

一方で、公共交通はあくまで移動手段であり、目的地の立地や、カバーする利用者層、移動需要を明確にし、ターゲットに合わせた施策の推進が必要です。

本計画では、各務原市が目指す将来都市像実現に向けて、公共交通が果たすべき役割を整理し、関係者相互間の連携と協働を通じ、利便性・持続可能性・生産性の高い地域公共交通ネットワークを確保・維持します。



# 2. 計画の区域と計画期間

本計画の計画区域は、各務原市全域とします。

本計画の計画期間は、2024年4月から2031年3月までの7年間とします。

(※)今後、上位計画である「各務原市総合計画」の評価・見直しを踏まえて本計画の方針を決定するため、計画期間を7年間として次期総合計画の中間評価結果を反映します。

(参考) 次期各務原市総合計画 計画期間:2025年度～2034年度

### 3. 各務原市における地域公共交通の課題と対応方針

各務原市における地域公共交通の課題を以下に整理します。

#### 人口減少・高齢化のさらなる進展

- 市の人口は、2045年には119千人程度まで減少すると予測されています。
- 2045年には65歳以上の人口が35%を超えると予測されています。
- 既存公共交通サービスの利用が困難となる高齢者の増加が懸念されます。
- 人口減少下では、予算や人材等の資源の減少も懸念されます。

#### 課題1 人口減少・高齢社会における効率的・効果的な公共交通サービスの提供

- 人口減少を見据えた都市計画と協調した持続可能な交通施策の展開が必要です。
- 公共交通の利用者層に合わせたサービスを提供する必要があります。
- 高齢化に対応した新たなモビリティサービスの導入検討が必要です。
- 関係者が連携・協働し、公共交通を維持・確保する仕組みが必要です。

#### 変化・多様化する移動需要

- 少子・高齢化の進展により、朝夕の通勤・通学利用者は減少し、昼間帯の買物・通院目的の需要が増加しています。
- 高齢者の運転免許返納や運転技術(認知機能)の低下に伴う自動車の利用控え等を背景に、公共交通の必要性が高まり、公共交通に対するニーズが多様化しています。

#### 課題2 変化・多様化する移動需要への対応

- 移動需要の変化に対応した公共交通サービスの提供が必要です。
- 公共交通がカバーできる移動需要の明確化が必要です。
- 様々な目的地へ移動できる公共交通ネットワークの確保・維持が必要です。

#### 社会情勢を踏まえた公共交通の確保・維持

- コロナ禍以降、生活様式の変化等を要因とし、公共交通の利用者数が減少したことで、民間事業の経営は厳しくなっています。
- バス・タクシー運転士の慢性的な不足が続いています。他業種と比較して、労働時間(拘束時間)が長いほか、運転士の高齢化も進んでいます。
- 公共交通を取り巻く新技術・システムの研究・導入が進んでいます。

#### 課題3 利用者数の向上と運行体制の確保

- 公共交通サービスを維持するためには、利用者の確保・向上を図り、民間事業の安定化が必要です。
- 運行体制を維持するためには、交通事業者と行政等が連携・協働し、積極的な運転士確保や負担軽減が必要です。
- 現在の運行の見直し、改善を行ったうえで、新技術・システムの活用等、効果的かつ効率的な移動手段の導入検討が必要です。

各務原市における地域公共交通の課題への対応方針を以下に整理します。

### (1) 三位一体の取り組みの推進 対応する課題 1・2・3

地域住民、交通事業者、行政が三位一体となった取り組みを推進します。

### (2) ターゲットに合わせた公共交通のデザイン 対応する課題 2・3

#### ① 移動手段の整理

公共交通以外の交通手段も含めた市内における移動手段を整理します。

#### ② メインターゲットの明確化

高齢者や学生等、自身での自家用車による移動が困難な 20 歳未満、75 歳以上をメインターゲットとします。

#### ③ 公共交通のデザイン

メインターゲットの需要に即した持続可能な公共交通をデザインします。

### (3) 移動の選択肢の拡充 対応する課題 2

公共交通の充実を図ることで、移動の選択肢を増やします。

### (4) 利用促進・供給体制の確立 対応する課題 3

各種利用促進策や公共交通サービス維持に向けた取り組みを推進します。

## 4. 各務原市地域公共交通の基本方針

各務原市における地域公共交通の課題および課題への対応方針を踏まえ、各務原市が目指す交通の将来像の実現に向けた地域公共交通の基本方針を以下に設定します。

### ■ 交通の将来像

公共交通を使って誰もが住み続けられるまち

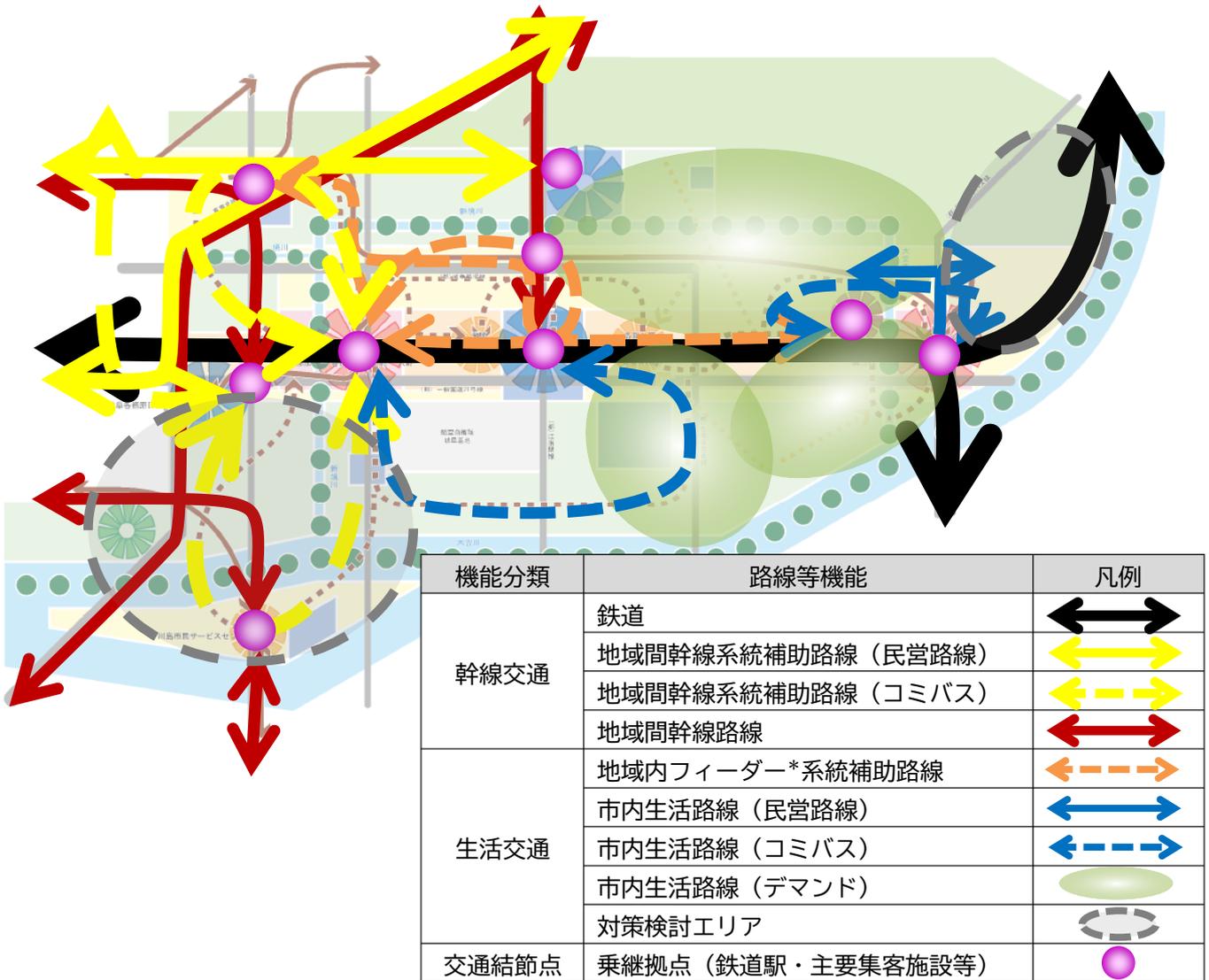
### ■ 基本理念

皆で支える持続可能な公共交通

### ■ 基本方針

- 1 各務原市が目指す交通体系の姿を皆で共有し、三位一体の取り組みを進めます
- 2 鉄道を軸とした多様な公共交通の接続により、移動の選択肢を増やします
- 3 メインターゲットを明確にし、ターゲットに合わせた取り組みを推進します
- 4 将来を見据えた持続可能な公共交通の供給体制を確保・維持します

【将来公共交通ネットワークイメージ】



【各公共交通の機能分類】

機能分類	該当する 現行路線	運営主体	路線機能
幹線交通 (鉄道)	JR高山本線 名鉄犬山線 名鉄各務原線	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域的な都市間の移動軸として、名古屋市、岐阜市方面への通勤・通学の移動需要に対応する。</li> <li>・市内における東西の移動軸として、日常的な移動需要や観光等来訪者の移動需要に対応する。</li> </ul>
幹線交通 (路線バス)	路線バス	交通事業者 (必要に応じて市が支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市間の移動軸として、岐阜市、笠松町、一宮市方面への日常的な移動需要に対応し、鉄道とともに地域公共交通ネットワークの骨格を形成。</li> </ul>
生活交通 (路線バス・ コミュニティバス)	路線バス	交通事業者 (必要に応じて市が支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅団地や集落から、地域の生活拠点や幹線交通までのアクセスを確保する支線的な役割を担う。</li> <li>・ふれあいバス川島線は、隣接する笠松町との幹線的な役割を担う。</li> </ul>
	ふれあいバス		
生活交通 (デマンド交通)	チョイソコ かかみがはら	市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスやコミュニティバスが利用できない地域において、住宅団地や集落から、地域の生活拠点や幹線交通までのアクセスを確保する。</li> </ul>
生活交通 (乗用タクシー)	乗用タクシー	交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線バスやコミュニティバス、デマンド交通で対応できない、個人単位の需要(時間、場所)をカバーする。</li> </ul>

## 5. 計画の目標

地域公共交通の基本方針に基づく計画の目標および成果指標を以下に設定します。

### ■計画の目標

1 まちづくりと連動した公共交通ネットワークを構築します

2 乗り継ぎ利便性を向上させます

3 ターゲットに合わせた公共交通をデザインします

4 公共交通の確保・維持に向け、利用者を増やし、供給体制を確立します



### ■成果指標

指標	目標値(2030)	現況値(2022)
市内公共交通の利用者数	1,524 万人以上	1,524 万人
公共交通に対する不満割合	22%未満	22% (2023 年度)
乗り継ぎ利便性の向上 (乗り継ぎ拠点の整備)	4件	1 件
多様な主体 (地域住民・行政・交通事業者等) が連携した利用促進の取組件数	6 件	5 件

## 6. 実施施策

計画の目標を達成するために実施する施策を以下に整理します。

施策の実施にあたっては、個別施策ごとに実施主体を示し、各主体が連携・協働して取り組みます。

計画の目標	基本方針との対応				実施施策
	1	2	3	4	
1. まちづくりと連動した公共交通ネットワークを構築します	○			○	関係者との意見・情報交換
	○	○	○	○	都市計画と連動したコミュニティバス等の運行・見直し
2. 乗り継ぎ利便性を向上させます	○	○	○	○	乗り継ぎ拠点の整備
		○	○	○	交通系ICカードの利用環境整備
		○	○	○	乗り継ぎ検索の対応・運行情報の発信
3. ターゲットに合わせた公共交通をデザインします			○	○	バリアフリーの推進
	○		○	○	様々な主体と連携した利用促進施策
	○		○		高齢者のお出かけ促進施策
4. 公共交通の確保・維持に向け、利用者を増やし、供給体制を確立します			○	○	地域ニーズに応じた交通サービスの導入
		○		○	安全確保の取り組み
				○	運転士確保・支援
	○	○		○	デジタルチケットを活用した企画
(関連施策)		○		○	次世代モビリティ・先進技術の研究
	○	○	○	○	公共交通と親和性の高い他分野施策との連携

【乗り継ぎ拠点整備】  
バス乗降場の整備・管理  
(各務原市役所前駅)



【バリアフリーの推進】  
公共交通施設・設備のバリアフリー推進(新那加駅)



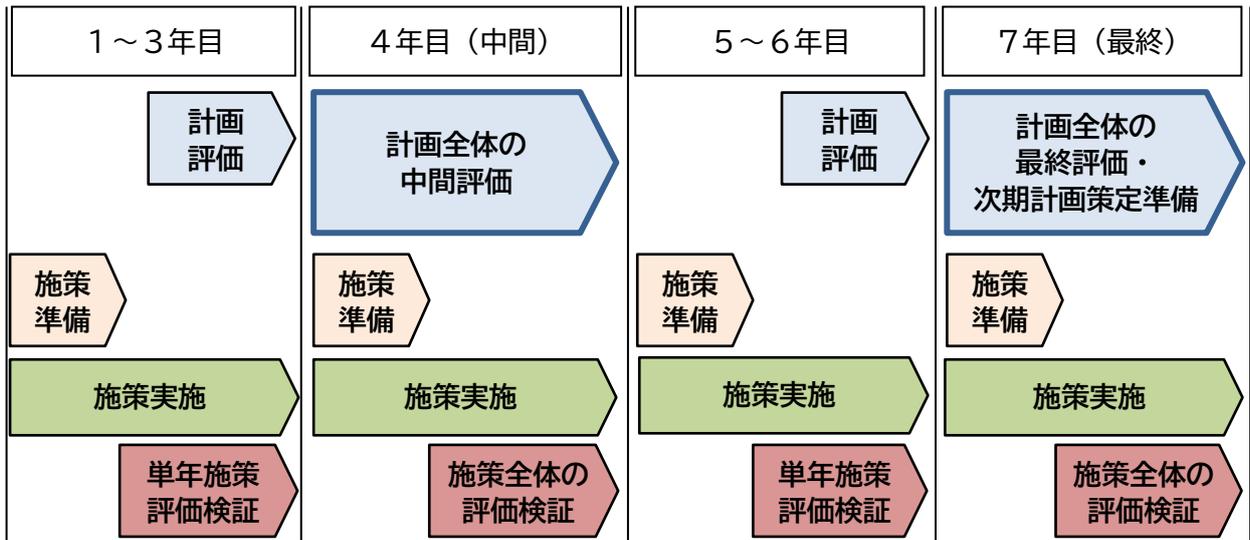
【運転士確保・支援】  
学生向け1day 仕事体験  
(岐阜乗合自動車)



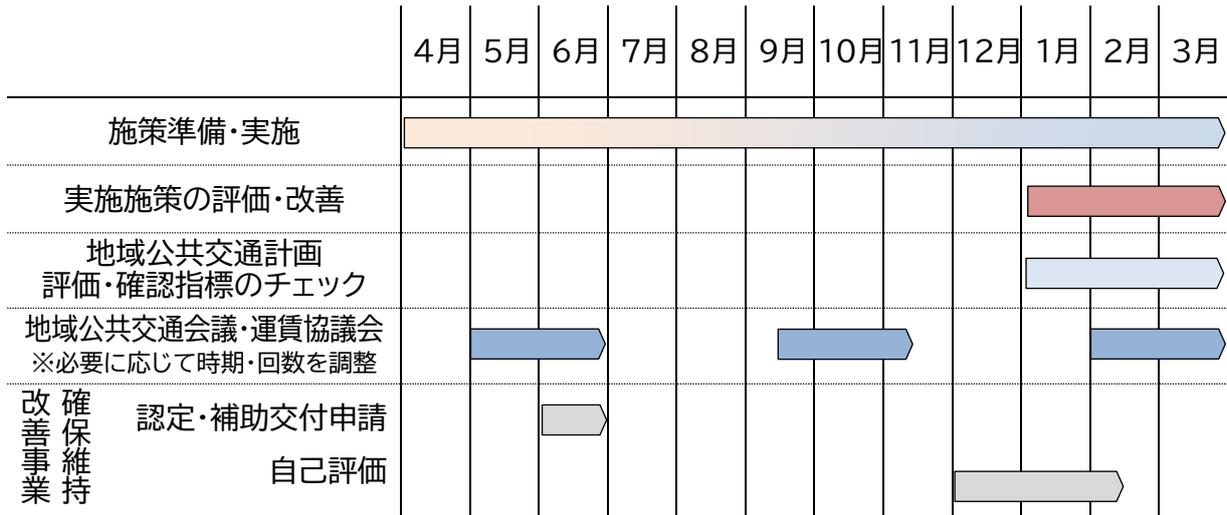
## 7. 計画の達成状況の評価に関する事項

- 本計画が目指す将来像の実現に向けて、「第4章の2. 計画目標」で示した成果指標について、計画期間の中間年度及び最終年度に評価を実施します。
- 個別施策の進捗状況および確認指標の評価は毎年度実施します。
- 確認指標は、公共交通手段別・路線別の利用者数や、ふれあいバス・チョイソコかかみがはらの利用者1人あたり公的負担額とします。
- 上記評価結果は、各務原市地域公共交通会議で協議し、必要に応じて運行サービスや個別施策の見直しを行います。

【計画期間全体の事業推進・評価スケジュール】



【毎年度の評価スケジュール】



### 各務原市地域公共交通計画【概要版】2024～2030

【編集・発行】：令和6年3月

各務原市 産業活力部 商工振興課 公共交通政策係

〒504-8555 各務原市那加桜町1丁目69番地

TEL：058-383-9912（直通） E-mail:kotsu@city.kakamigahara.gifu.jp